社協からこんにちは！

「少年の主張」でボランティア体験を発信！

勝山中部中学校　長谷川まいさん

9月12日に坂井市で開催された「少年の主張コンクール福井県大会」での、勝山中部中学校3年・長谷川まいさんの主張をご紹介します。

手話も交え、感情豊かに「主張」を発表。見事、青少年育成福井県民会議会長賞を受賞されました

「今の私にできること」

耳の聞こえないかたとのコミュニケーションをとるとしたら、みなさんはどうしますか？はじめに考えつくのは手話だと思います。でも、手話で私が覚えているのはあいさつと「ありがとう」だけ。そんな私でも、伝えたい一心でコミュニケーションをとることができました。

勝山市に最近建てられた福祉施設「すこやか」は、毎年すこやかフェスタを開催し、子どもから大人、お年寄りから障害をもったかたまで、大勢の人でにぎわいます。私は、そこで耳の聞こえない老眼鏡のよく似合うおばあさんに出会いました。その出会いがきっかけで、私がこころがけなくてはならないことを発見できたのです。

その出会いは私が売店の手伝いをしている時のことでした。一時間ほどして、店の手伝いにも慣れてきた私に試練がやってきました。そう、それがあのおばあさんです。

私の担当していたクラフト体験をしたいそのおばあさんに、私は今まで通り、どれを作りたいのか尋ねました。すると、相手は言葉として聞き取れない声とジェスチャーのような手の動きで私の質問に答えてきたのです。その様子と手の動きでピンときました。そう、おばあさんは耳の聞こえないかただったのです。

私は想定外の出来事にあせりました。あいにく、お店は頼りない私ただ一人。頭の中には「どうにかして対応しなければ…」という前向きな気持ちよりも、「逃げたい」「手話できないし」などの消極的な気持ちと「近寄れない」「怖い」といった、差別に似た気持ちがふくらみました。

しかし、そんなことを思っている私におばあさんは一生懸命何かを伝えようとしているのです。その一生懸命さが私の心にしみました。私はふと思いました。こんなおばあさんにできることが私にはないだろうか。と。

そして、まずおばあさんが何を伝えたいのか読みとろうと思いました。以前とは違うまっすぐな目で。するとはじめは何だか分からなかった手と口の動きが、意味のある"コトバ"として、読みとれたのです。「あなた、手話、できる、わかる」と、確かにそう見えました。私にも少しできると思うと不思議と自信がわいてきました。

さて、次は質問に答えなくてはなりません。手話のできない私にできることは……。私は、紙とペンを使って、できるだけ太く大きく文字を書きました。そして、おばあさんに見せました。通じて、通じて！そう願って汗ばむこぶしをぎゅっと握りました。おばあさんは私の肩をポンとたたきました。

顔をあげると、力強い字で「ありがとう。返事を素敵な手紙でありがとう」と書いた紙をおばあさんは差し出していました。言葉は伝わらなくても紙の中で言葉を交わしている。その紙を見て、飛び上がりたいほどうれしくなりました。二人で握手を交わし、顔からは先程の不安げな表情は消え、笑顔でいっぱいになりました。

そして、一緒にクラフトを作りました。おばあさんは最後に私も知っている手話で「ありがとう」と伝えました。その言葉は私の耳には届かなかったかもしれません。しかし、私の心にははっきり届きました。

私は、今までだれかに助けを求めずにやるということはあまりしませんでした。しかし、今回この体験で、一人で自分の力を出し切り何かをなし遂げる、今までにないその達成感を知り、またできる範囲までやってみる力がつきました。相手が伝えようとしている。その気持ちに少しでもと応えてあげたい気持ちを忘れなければたとえ不自由な障害をもったかたでも伝え合うことができるのです。手話と声では通じない。しかし、心と心は気持ち次第。周囲の方法を見習うのも大切ですが、その前に自分なりのやり方をまず見つけることが大切だと知りました。そうすれば、いつか必ず「あの時逃げなくてよかった。」と未来の自分が後悔しないことと思います。

お詫び

この度、勝山市老人休養ホーム平泉寺荘において、食中毒事故が発生しましたことについて、ご利用客様はじめ、これまで当施設を愛し、ご利用いただいてきたお客様に、大変なご心配とご迷惑をおかけいたしましたことに、心よりお詫び申し上げます。

今後、原因究明に全力をあげ、二度とこのような事態が発生しないよう、従業員一同、心新たに対処してまいる所存でございます。

なお、患者様に対しましては、重ねて心よりお詫び申し上げますとともに、誠意を持って対応させていただく所存でございます。

平泉寺荘荘長

ランティー・ニュース

ランティー
「ランティー」は、福井県のボランティア・シンボルです

「社協からこんにちは！」「ランティー・ニュース」に関するお問い合わせ先
社会福祉法人 勝山市社会福祉協議会（☎88−1177）

ボランティアについて語れるボランティアが必要です
ボランティアリーダー研修を開催

福井県社協および勝山市社協では、ボランティア活動経験者およびボランティアグループのリーダーなどを対象に、参加者同士が互いの課題を共有しながら、活動の牽引役として必要な知識・技術を習得し、ボランティア活動のさらなる活性化につなげていくことを目的に研修会を開催します。

と　き	11月7日（金）午後1時〜4時30分
ところ	福祉健康センター「すこやか」第1会議室
テーマ	「学びと気づきあるグループづくり」《講義・演習》
講　師	小山田　奈央氏（クレント・ワークス　代表）
定　員	60人程度
申込期限	10月28日（火）
申込方法	☎88−1177、FAX 88−5124 E-mail（info@katuyama-sk.jp）

学校を挙げてボランティア月間！

勝山市立成器西小学校

成器西小学校では、9月のボランティア月間に合わせ、学年ごとに、手話学習やボランティアについての学習を10月にかけて行うほか、全校でZARDの「負けないで」の手話コーラスに取り組みました。3、4年生が各上下級生に教える形で、クラスや学年ごとに練習を積みながら、9月26日の「ひびきの広場」の時間に全校でできばえを確認し合い、10月5日には、校内の運動会で保護者や地域のかたに披露しました。子どもたちの手話にのって、福祉やボランティアの精神が地域に広がるよう願っています。

あたたかいご寄付ありがとうございました

社会福祉事業基金にご寄付をいただいたかたがた（順不同）

島田松江様　栄町1　金16,000円
匿名のかた　本町3　金10,000円

9月8日、広瀬昭隆様（猪野口）から、当会事業所の居宅介護サービスを利用されていたご尊父（9月3日にご逝去）への支援に対する感謝と社会福祉増進へのお志として、社会福祉事業基金に金100,000円のご寄付をいただきました。

ボランティアセンターにご寄付をいただいたかたがた（順不同）

○金品のご寄付
北陸労働金庫勝山支店地域推進委員会　金14,000円

○物品のご寄付
匿名のかた（手編み座布団多数）
匿名のかた（紙おむつ多数）
匿名のかた（日用雑貨多数）

同日、北陸労働金庫勝山支店地域推進委員会から、地域交流行事でのチャリティー募金によるアルミ製車いす1台とボランティアセンターへのご寄付をいただきました。市社協では、要介護者のかたへの貸し出し用として、また、ボランティア活動の推進に役立たせていただきます。